

## 第 2 章

# 日本語にしばられる、 しばられない

### ■ Introduction

「英和辞典1冊あれば、英語なんて、どんと来いだ！」  
しかし、ちゃんと英和辞典が使えているのでしょうか？  
さいしょの訳語だけパッと見て、1語3秒で済ませるひとが、いかに多いことか。

challenge は「チャレンジする」

boring と bored は「退屈な」

cruel は「残酷な」

—— 英単語を決まりきった和訳語に置き換えるクセを助長する英和辞典。そのツケは大きい。実例でお示します。

### challenge は「チャレンジ」ではない

強みも弱みは人によってさまざま。サクマさんは意欲的で粘りづよい学習者ですが、粘りが災いして同じ凡ミスを繰り返すことも。

**わたし:** Sakúma-san, téll me, what are your pláns for nèxt wéek? (サクマさん、来週はどんな予定ですか)

**サクマ:** I'm going to chállenge the TÓEIC tèt. This will be my thírð time to chállenge TÓEIC. (TOEICテストにchallengeします。TOEICにchallengeするのは3回目です)

**わたし:** Oh, what's wróng with TÓEIC? Are you so unháppy with TÓEIC? (え、TOEICに何か問題でも？ TOEICにさうとう不満があるんですか)

**サクマ:** Wèll, my scóres in the lást còuple of tésts were múch lówer than I expécted. (過去2回のテストのスコアが思ったよりずっと低かったのです)

**わたし:** So you are going to chállenge TÓEIC. Are you going to críticize TÓEIC in your blóg or on Fábcebook? Máybe you are going to sáy mány of the quéstions there are nòt próperly prepáred to méasure your abílity in Énglish, ríght? (それでTOEICに対してchallengeするというわけですね。ご自分のブログかFacebookでTOEICを批判するわけですか。TOEICの出題の多くが、英語の実力を測るためにうまく作られてはいないと言いたいってところでしょうか、どうですか)

※サクマさんをはじめ、本書のなかに、ハットリさん、ノグチさんという3人の個性的な受講者とわたしのやりとりが出ていますが、これらは実在する受講者とのやりとりのエッセンスを再現したものです。3人のお名前は実名でなく変えてあります。

**サクマ:** ……あ、またやっちゃいましたかね。

**わたし:** はい、以前にも、ご指摘しましたね。「チャレンジする」はchallengeではないです。Let me àsk you agáin, what are your pláns for nèxt wéek? (もういちど聞きますね。来週はどんな予定ですか)

**サクマ:** I'm going to trý the TÓEIC tèt agáin. (TOEICテストをもういちど試してみます)

**わたし:** Fíne. I hòpe it will be a gòod trý. (そうですか。いいチャレンジになりますように)

日本語の「チャレンジする」は英語では「トライする(try)」に置き換えれば、とりあえずいいんだけど、いちいち「ものは試して」と強調することもないよね。

日本語でいう「～にチャレンジします」は要するに「思い切って～します」「ちゃんと～するつもりです」ということだから、発想を変えてみたらどうか。例えば

I'm going to tàke the TÓEIC tèt. It's nòt éasy.  
(TOEICテストを受けます。楽勝じゃないですよ)

### バレーボールなどの試合中の、あの「チャレンジ」

サクマさんは文法もしっかり身につけていて優秀なのだけど、日本語の「チャレンジする」を、そのままchallengeと言ってしまうクセがなかなか抜けません。

バレーボールなどの試合中に、監督が「チャレンジ」を申し入れることがありますね。審判の判定は間違いだ!と「異議を申し立て」て、ビデオ判定を要求する、あれです。この「チャレンジ」が英語のchallengeです。「異議を申し立てる」「いちゃもんをつける」。

challengeは動詞や名詞として使われるわけですが、日本語の

「チャレンジ」と重なる部分はゼロではないものの、意味の重なりはごくわずかです。英英辞典が challenge をどう説明しているかを見れば、納得感が増します。

まずは動詞の challenge から見ていきましょう。

「異議を申し立てる」「いちやもんをつける」という語義は、次のように説明されています。

**challenge:** to tést or quéstion sòmone || *I did nòt think he was ríght, so I chállenged him.* (Longman Basic English Dictionary)

(誰かのことに探りを入れたり疑問視したりする || わたしは彼が間違っていると思ったので、彼に疑問を投げかけた)

**challenge:** to tèll sòmone you do nòt accèpt their rúles or you think they are wróng || *The eléctiòn resùlts are being chállenged.* (Cambridge Essential English Dictionary)

(誰かに対して「あなたのいう決まりには従わない」ないし「あなたは間違っている」と言う || 目下のところ、選挙結果には異議申し立てがなされている)

**challenge:** to refúse to accèpt a sèt of rúles; to sàý that you think sòmone or sòmething is wróng || *She does nòt like ányone chállenging her authórity.* (Oxford Basic American Dictionary)

(ひとまとまりの決めごとを受け入れるのをこぼむ; 誰かあるいは何かが間違っていると思う、と口に出して言う || 誰であれ自分の威光にたてつく者のことを彼女は好まない)

なんと英英辞典でお局様(おぼやめ) 例文に遭遇してしまいました!

ご覧のとおり、「トライする」「やってみる」という意味の「チャレンジする」とはまったく異なります。

「選挙結果に challenge する」は「選挙結果がおかしいと声をあげる」という意味ですから、「TOEIC テストに challenge する」も「TOEIC テストがおかしいと声をあげる」という意味になってしまうわけですね。

「異議を申し立てる」ということは「相手に勝負をしかける」ことでもありますね。「いざ勝負!と相手をさそう」のも challenge です。

**challenge:** to invite sòmone to fíght or plàý a gáme with you || *Jáckson chállenged O'Meára to anòther gáme.* (Collins COBUILD Primary Learner's Dictionary)

(戦いや試合の相手として誰かをさそう || ジャクソンはオメアラに対して、もういちど勝負させてくれと申し入れた)

**challenge:** to àsk sòmone to plàý a gáme with you or fíght with you to sèe whó wíns || *The bóxer chállenged the wòrld chámپیòn to a fíght.* (Oxford Basic American Dictionary)

(誰かに対して、その誰かと自分のどちらが勝つか確かめるために、試合や戦いの相手となってくれるよう求める || ボクシング選手は世界チャンピオンに一戦を申し入れた)

**challenge:** to àsk sòmone to compéte in a gáme or fíght || *He chállenged me to a gáme of ténnis.* (Cambridge Essential English Dictionary)

(誰かに対して、試合や戦いで競うことを求める || 彼はわたしにテニスの試合を挑んできた)